

特別セミナー（聴講自由）

# 学問分野の分化と統合



講師：神里 達博 氏 (Tatsuhiro Kamisato)  
千葉大学 国際教養学部 教授  
朝日新聞 客員論説委員

東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得退学。博士（工学）。東京大学大学院工学研究科特任准教授、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任准教授などを経て2016年4月より現職。著書に『文明探偵の冒険—今は時代の節目なのか』（講談社現代新書）、『食品リスク—BSEとモダニティ』（弘文堂）など。

2019年 8月8日（木）

16時30分～18時30分

物理・大学院講義室 1

（理学合同B棟7階745号室）

近年、「文理融合」が叫ばれるが、元々学問は一つであったものが近代化のなかで分かれていったともいえる。そこで、学問分野の分化の経緯を簡単に確認した上で、統合の必要性が意識される一つの契機となった、科学技術の倫理的・社会的課題の前景化について、考えてみたい。

本セミナーは理学研究科大学院集中講義「科学コミュニケーション」の一環です。

テーマ「リスクとコミュニケーション」

現代は、リスクとどう向き合うかが、社会的に最も重要な課題の一つとなっている。とりわけ、科学技術に伴うリスクの問題は、環境、健康、エネルギーなど、さまざまな分野で注目されている。しかし、リスクという概念は、実は非常に西洋近代的なものであり、日本社会において必ずしも馴染んでいるものではない。また、リスクに関するコミュニケーションは、専門性の問題やメディアとの関係など、さまざまな論点がある。そこで本講義では、科学技術と関わるリスクの問題を中心に、そもそもリスクとは何か、リスク社会という考え方、またメディアとリスクの関係、といったテーマで検討を進める。さらに、近年の食品問題などを例に、具体的な事例を通して理解を深める。

8/8（木）13時～16時、本特別セミナー

8/9（金）9時30分～12時30分

理学研究科理学合同B棟743号室（特別セミナー以外）

特別セミナーはどなたでも参加頂けます。

問合せ：[scicom@incertitude.jp](mailto:scicom@incertitude.jp) 内線5823（本堂）